

特集：大学説明会

学生による大学説明 ―一般入試について―

川辺 寛太（筑波大学 生物学類 1年）

受験体験ということ、筑波大学の二次試験を受けた時の思い出についてしみじみと語りたいと思います。

僕は、試験当日の2日前につくば市内にはいりました。僕の出身は宮崎県なので、宮崎空港から羽田空港へ飛行機で飛んで、そこから高速バスに3時間ゆられてきました。宿泊したホテルは試験会場から徒歩7分のところでした。このホテルの予約を取ったのは10月中旬のことで、同時に飛行機のチケットも取りました。つくばは受験生の数に対して宿泊施設の数が圧倒的に少なく、高校の先生の話によると、ホテルの予約を10月中までには取らなければ、つくば市内に宿泊することは難しくなるらしいです。実際、聞いた話によると、つくばのホテルの予約を取ることができず、仕方なく東京のホテルに宿泊して、当日の朝の始発でTX（つくばエクスプレス）にのってつくばにやってきた人もいたそうです。当日に遅刻しないため、また落ち着いて朝を迎えるためにも、筑波大学を受験すると決めたら、早めにホテルの予約を取っておくことを勧めます。

試験前日は、“いまさら勉強してもいみないだろっ！！”と置いていっしょに宮崎から来た友達と下見を兼ねて散歩に出かけることにしました。・・・・・・

・それが間違いでした……。知っている人も多いと思います。筑波大学は全国の大学に比べて大学の敷地はとて広いです。僕と友達は迷子になってしまい、行き先のわからないバスに乗ってしまい4時間も延々と寒空の中を歩き続けました。寒さと疲労でくたくたになってホテルに帰りついたのを覚えています。ホテルに帰ってからなにもする気になれませんでした。しかし、疲れ

たおかげか次の日の試験に対するプレッシャーをそっちのけに、夜は熟睡することができました。

試験当日の朝、いざ出陣！！と張り切って外に出ました。・・・・・・死にそうでした・・・・・・2月という真冬の空の下、南国育ちの僕たちにとってはその寒さは少々耐えがたいもので、凍えながら試験会場まで足を運びました。徒歩5分の道のりを20分も歩いたようにも感じながらやっと会場の教室の部屋に入りました。・・・・・・死にそうでした・・・・・・

その部屋は、暖房設備のせいであまり暖かさを乗り越えて暑く、“ここは熱帯地域かっ！？”と思えるほどで、南国育ちの僕にもかなり耐えがたいもので、試験の休み時間ごとに外の空気を吸って生命維持を行っていました。ここでひとつアドバイスです。外はとて寒いですが中はとてつもなく暑いので、当日の格好は一番下に夏のような服装をして、重ね着をすれば、衣服の着脱が容易となるのでそれをお勧めします。肝心の試験はというと、前日の熟睡のおかげで、自分の力を100%満足に出し切ることができました。そしていま、大学生活を十分満喫しています。受験が終われば楽しくも（まあまあ）忙しい大学生活が待っているの、頑張ってください！！

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 23, 2007.